

心臓病

心臓病はがんに続き、日本人の死因第2位にあげられる。

急性の場合は生命に関わるため、日頃から信頼のおける病院を探しておくべきだ。

取材・文／伊波達也

超高齢社会を迎え、増加の途をたどる生活習慣病。その悪化が原因で起こることが多いのが心臓病だ。心臓病は、大きく三つに分けられる。

一つめは、心臓に栄養を送る冠動脈がコレステロールの沈着などで、狭くなったり詰まったりする狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患。二つめは、心臓本体の四つの部屋（右心房、左心房、右心室、左心室）それぞれの血流の出入り口である弁が狭くなったり、不具合で血液が逆流したりする弁膜症。三つめは、心臓から全身へ血液を循環させる大動脈の病気。破裂の危険性がある瘤が生じる大動脈瘤、血管にひびが入ったり裂けたりする大動脈解離が代表的だ。

他にも心臓の筋肉の動きが鈍る拡張型心筋症、小児の先天性心疾患など、一口に心臓病といってもさまざまな病気がある。

**切らない治療が増加
複雑な症例は手術を選択**

心臓病の治療には内科的治療と外科的治療の2種類がある。病気の性質や患者の状態、他の病気の有無などを考慮したうえで、治療法が選択される。

虚血性心疾患の治療は、内科的には薬を服用する治療とカテーテルを使った治療がこなされる。カテーテルを使った治療はPCI（経皮的冠動脈形成術＝心カテーテル治療、イラスト参照）と呼ばれ、足の付け根やひじ、手首からカテーテルを

挿入し、冠動脈まで到達させる。X線画像を見ながら、狭くなったり詰まったりした血管を再開通させ、ステントという筒状の網で血管が再び狭くならないように、内側から補強する。治療後は、薬物での治療や生活習慣に留意して再発を防ぐ。

一方、外科的治療では、詰まった血管の迂回路を患者自身の体内から採取した血管（グラフト）を使って作り、血流を確保する冠動脈バイパス手術が実施される（イラスト参照）。以前、天皇陛下が受けたのはこの手術だ。昨今ではPCIが選択されることが多く、手術を選択するのは、いくつもの血管が詰まっていたり、他の心臓病が合併していたりする場合が中心になる。



慶応義塾大学病院
循環器内科専門講師
林田健太郎 医師



熊本大学病院
循環器内科教授
小川久雄 医師



樹原記念病院
心臓血管外科主任部長
高梨秀一郎 医師

キーワード解説

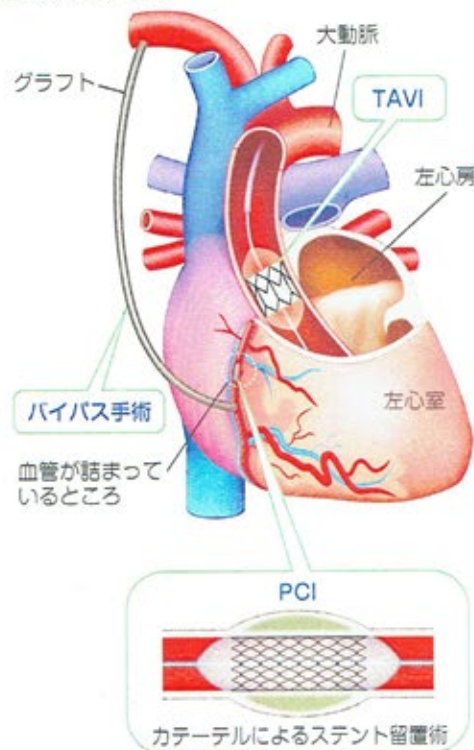
ハイブリッド手術室

従来の手術室に、通常は別にある放射線透視装置を組み合わせて、手術とカテーテル治療ができる手術室。内科と外科が共同でおこなう治療に使われる。

ステントグラフト

人工血管にステントというバネ状の金属を取り付けたものをステントグラフトという。カテーテルで運び、患部に装着して、悪くなった大動脈をカバーする。

■心臓病の治療



心臓の病気
心臓病

弁膜症の治療は、外科手術が基本だ。悪くなった弁の代わりに機械弁や生体弁(豚や牛の弁)に置き換える弁置換術と、患者自身の弁を修復する弁形成術がある。機械弁は耐久性があり生涯使えるが、血栓がたまりやすいため、抗血栓薬を一生飲み続けなくてはならない。一方、生体弁は、薬を飲む必要はないが、耐用年数が10〜15年といわれ、手術で交換する必要がある。

弁膜症の治療での最近のトピックスは、大動脈弁狭窄症の治療に対して、カテーテルで人工弁を心臓まで運び、悪くなった弁の部分に装着するTAVI(経カテーテル大動脈弁留置術、イラスト参照)という治療法が保険で認められたことだ。全国42の病院で、現在までに900例以上が実施されている。「TAVIはハイブリッド手術室(キーワード参照)を持ち、冠動脈のカテーテル治療を年間100例以上実施しているなど、一定の基準を満たした病院のみでできます。まだ発展途上です

が、注目すべき治療です」
そう話すのは、慶応義塾大学病院循環器内科専門講師の林田健太郎医師だ。林田医師は、日本で唯一のTAVIの指導医として、新しく導入する全国の病院で指導もおこなっている。
手術不可能な高齢者もカテーテルで治療できる
TAVIの登場により、従来は手術が不可能な体力的に衰弱した高齢者や、他の病気を持った人、呼吸機能や血管の状態が悪い患者でも治療を受けられる可能性が出てきた。現在は大動脈弁狭窄症に対してのみの適応だが、今後は技術や器具の発展により、弁閉鎖不全などにも適応できるようになりそうだ。
大動脈疾患の治療も、従来、外科的に大動脈を人工血管に交換する大掛かりな手術が実施されてきたが、昨今では、カテーテルの先に人工血管を仕込み、患部に装着して補強するステントグラフト治療(キーワード参

照)という方法も普及してきた。
一方、心臓病ではないが、高齢者のQOL(生活の質)を左右する病気として、末梢血管疾患の治療も注目されている。熊本大学病院循環器内科教授の小川久雄医師はこう指摘する。
「特に、第二の心臓」といわれる足の動脈、静脈が詰まる病気は、動脈硬化のある高齢者を中心に増えています。これが原因で歩けなくなると、心臓の機能や他の病気にも悪影響を与えます。循環器の領域では心臓の治療とともに大切な治療です」
この病気にも外科的に血管をつなぐ治療法とカテーテルによる治療法がある。
小川医師が代表理事を務める日本循環器学会では「循環器疾患診療実態調査」を2004年から実施している。同調査を見ると、現在の心臓血管領域の検査や治療の傾向を把握できる。
「今後はさらに採取したデータをさまざまな方法で情報開示していく考えです」(小川医師)

イラスト=心臓病の治療は、血管内の治療と心臓本体の治療に分けられる。いずれの治療も、外科手術に加え、カテーテルによる内科的治療が進化しているため、治療の選択肢が増えている。